

年間収入を補う秋冬番茶2回摘採技術！

【研究のポイント】

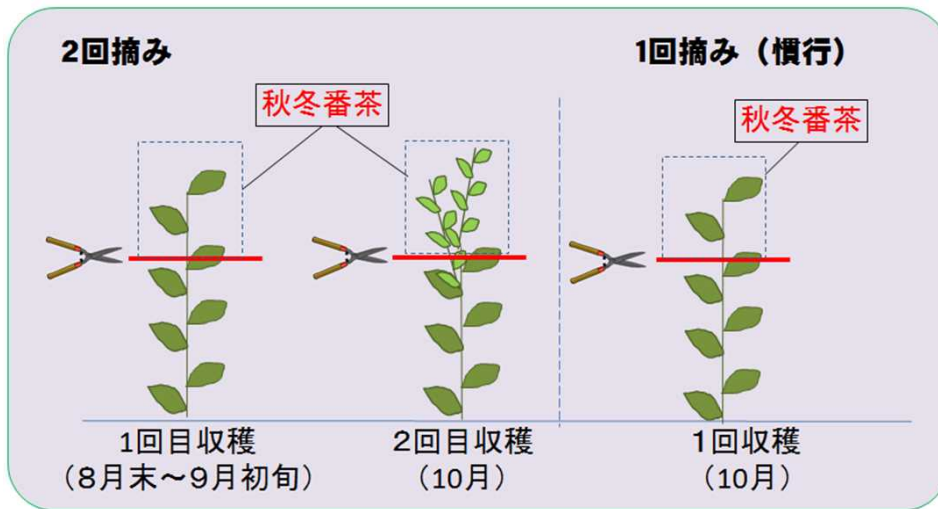
大分県の茶栽培面積は年々増加していますが、翌年の収量に影響することから三番茶が収穫(=摘採)できない県内一部の生産現場においては、5月の一番茶、6月の二番茶に続く第三の収穫で収入を確保する技術が求められています。
そこで当チームでは高品質な秋冬番茶を収穫するための「秋冬番茶摘採技術」の確立に取り組んでいます。

【研究の成果】

<秋冬番茶の2回摘み技術の確立>

秋冬番茶は本来10月に1回で収穫するものですが、それを夏の終わりに1回と、10月に1回の計2回収穫する方法について検討しました。

(番茶とは、硬くなったり伸びすぎたお茶の葉や茎などを使って作ったお茶です)



品種	試験区	収量 (kg/10a)	合計収量 (kg/10a)	官能審査 合計点
やぶきた	2回摘み区・1回目	187	382	37
	2回摘み区・2回目	195		39
	1回摘み区 (慣行区)	491	491	30

高得点！

2回摘みの方が、官能(味と見た目)審査の点が高く、品質がよい。柔らかいため製茶もしやすい。

その結果、これまでの秋冬番茶よりも品質の高いお茶を収穫することができるようになりました。

<生産現場への普及>

現場への普及はまだまだこれからですが、番茶の需要が高いドリンク専用茶園などへの普及が見込まれています。

【生産者の声】

これまでも秋冬番茶の受注製造を行っていましたが、品質が粗く、低単価で取り引きしておりました。この秋冬番茶摘採技術に取り組んだおかげで、品質が格段によくなり、単価が4~5割も向上し、経営的に非常に助かりました。

株式会社 旭 代表 田中 拓次 氏(豊後大野市)



【連絡先】

担当:農林水産研究指導センター 農業研究部 茶業チーム
TEL :0974-28-2082
住所:大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8